

スカウトちば

SCOUT CHIBA

「スカウトちば」は、日本ボーイスカウト千葉県連盟の広報誌です。

Vol.103

2024年3月31日発行

CONTENTS

ジャンボリー・オン・ジ・エア・ジャンボリー・
オン・ジ・インターネット 2023

全国防災キャラバン

千葉県誕生150周年記念パレード

各地区の活動から

高橋昭二副連盟長を偲んで

特別な支援が必要な子どもへの対応
指導者セミナー



JOTA-JOTI 2023

ジャンボリー・オン・ジ・エア・ジャンボリー・オン・ジ・インターネット

JOTA-JOTIは、毎年10月の第3週末に世界スカウト機構(WOSM)が主催する公式教育プログラムで、スカウトがアマチュア無線、インターネットを利用して国内及び海外のスカウトと交流し、お互いを理解し合い、知識と友情を深めることを目的としています。2023年は、10月20日(金)より22日(日)まで3日間、全世界で開催されました。全世界で200万人のスカウト・リーダーが参加しており、千葉県連盟では、市原青少年会館に特設会場を設け、アマチュア無線交信体験、モールス信号体験、インターネットによる国内外のスカウト仲間とビデオチャットで交流をしました。また、船橋、流山、銚子、遠くは転校先の石川県からも参加報告がありました。

参加したスカウトや指導者から寄せられた感想をまとめ以下に紹介します。

市原第7団(スカウト)

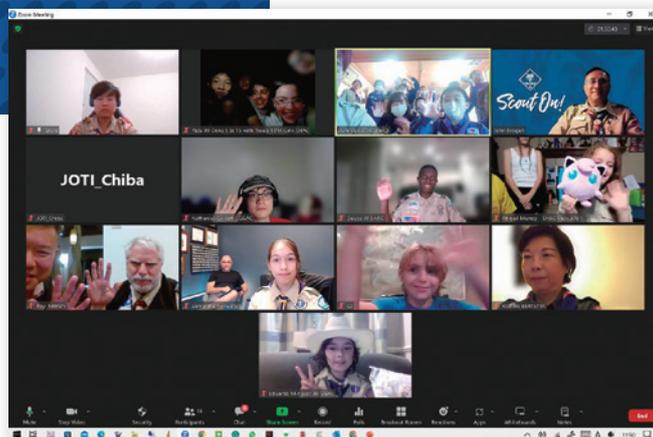
- アメリカのスカウトと話が出来てうれしかったです。
- モールス信号で自分の名前やSOS打ち方が覚えられて良かったです。
- 次回は、海外のスカウトとたくさん話したいと思います。
- 英語で自己紹介し緊張しましたが通じて良かったです。

市原第6団(スカウト)

- アメリカと直接ネットで繋がって、リアルタイムでお話しができたのがスゴいなあと思いました。
- アマチュア無線の体験で、しゃべるのが楽しかったです。
- 制服が国によって違うこと、まだまだ世界のボーイスカウトについて知らないことが沢山あるなど実感しました。知らないことが知れるこのJOTA-JOTIの活動は素晴らしいと思います。

君津第2団(指導者)

- 継続で参加したスカウトは、去年よりもっと、という気持ちで英語を勉強したり、質問をさらに答えやすいように、問いかけたりと、工夫しているように見えました。継続することが大事ですね。



- 画面ごとに、一対一で外国の方と話しをするチャンスは、なかなかいいですね。私も今回は十分にやりとりできた感じをもち、JOTA-JOTIの意義を実感しました。

流山第3団(指導者)

- 今回の経験をもとにスカウトたちがアマチュア無線を正しく理解して、国内外のスカウトたちと楽しくJOTA-JOTIに取り組める様に来年度のJOTA参加へ向けた、工夫をしてゆきたいと思います。

船橋第14団(指導者)

- 神戸より転団してきたカブスカウトの所属していたカブ隊と楽しく交流することが出来ました。



全国防災キャラバン

うみかぜ地区として初めての防災キャラバンをイオンモール木更津で令和5年12月3日(日)に開催しました。会場では3市のご当地キャラ、袖ヶ浦市ガウラクくん、木更津市きさポン、君津市きみぴよんの協力のおかげで、多くの親子連れに立ち寄っていただき、約150人の子どもたちが防災キャラバンを体験しました。昨年同様に思いやり防災として聴覚や視覚にハンディーキャップがある体験を通して困っている方を見かけた時に子どもたちでも出来ること考えたり、避難時の持ちだし袋の中身をキムスゲームで学んでもらったり簡単なロープワークや身近なもので作る簡易担架作りも体験してもらいました。また、会場に設置されている大画面のデジタルサイネージを使って防災クイズや世界ジャンボリーの画像を流しました。当日はイオンモールと木更津市がタイアップした防災フェアを屋外駐車場で開催、自衛隊のヘリコプターや消防署のはしご車などを配置、例年より多くの人でにぎわっていました。



防災キャラバンに参加して

うみかぜ地区 千葉第13団 ベンチャースカウト隊 | 寺田 美咲

私は12月3日にイオンモール木更津で行われた防災キャラバンの支援をしました。担当したのは簡易担架の作り方を説明し、実演することです。

大変だったと感じたことは参加者への説明です。小学生にも伝わるような分かりやすい説明をすることは難しかったです。

対して、よくできたことは参加者に笑顔で優しく接することです。

私は、このようなイベントに参加することや、うみかぜ地区の支援をすることは初めてだったのでとても貴重な経験になりました。今後この経験を生かしていきたいです。

最後に、もし災害が起こった時に落ち着いて自分にできることを率先して出来るようになりたいです。



千葉県誕生 150周年記念パレード

千葉県は令和5年6月15日に誕生150周年を迎え、その記念として館山市と千葉市でパレードが実施されました。ボーイスカウト千葉県連盟ではうみかぜ地区のスカウト・指導者などがこのパレードにプラカード持ちとして参加しました。

11月12日(日)は、館山市鏡ヶ浦通り付近、11月23日(木祝)は千葉市臨港プロムナード付近で実施されました。沢山の観客の前を先頭集団(ゆるキャラ)に続いて千葉県警察音楽隊の前で横断幕を、中学・高校吹奏楽部、よさこいチーム、チアダンス、高校バトン部、スポーツ団体など約9団体の前でプラカードをボーイスカウト、ガールスカウトと一緒に持ち、協力しあい立派に胸を張って先導を果たしました。

地区が広くなりチーパ君の首から下がうみかぜ地区でスカウトも指導者も移動に大変でしたが、スカウトにとって素晴らしい貴重な体験ができ、心に残る財産になったと思います。各団体より感謝の気持ち、ありがとうの声がありました。



千葉県誕生150周年記念パレードに参加して… うみかぜ地区のスカウトの感想

千葉県第6回 ボーイスカウト隊 | 齊藤 和広

僕は、パレードではプラカードを持ちました。プラカードは重かったけれど遠い人にも見えるように高く持ち上げました。大勢の人の間を歩く時、緊張もしましたがワクワクして楽しく歩けました。

千葉県第6回 ボーイスカウト隊 | 菊池 宥哉

僕は、千葉県誕生150周年記念パレードに参加し、熊谷知事、神谷市長、ミッキーマウスに会う事が出来ました。

次の100年に向けた一歩を踏み出せたと感じています。

千葉県第14回 カブスカウト隊 | 青井 陽菜乃

私は千葉県誕生150周年記念パレードで横断幕を持つことになりました。それを知った時はうれしかったです。なぜなら、こんな大きな記念パレードにボーイスカウトとして参加できるからです。

当日、私はとても緊張しながらもパレードにのぞみました。最初は緊張して体がカチカチに固まってしまいました。けれども、近くにボーイスカウトやガールスカウトの仲間がいたので、緊張がほぐれて楽しくなってきました。

そして無事に終わると、パレードの役割をやり切った達成感がありました。

貴重な経験をさせていただき、とても良かったです。

千葉県第14回 カブスカウト隊 | 高岡 紗良

パレードにプラカード持ちで参加してみても緊張したけれど、道路の真ん中を堂々と歩くことができてたのしかったし、ガールスカウトの子といっしょに持ったので、うれしかったです。また、どの出し物も近くで見ることができ、迫力があってすごかったです。

千葉県第14回 ボーイスカウト隊 | 林 冬馬

『プラカードを持ってパレードに参加している時、千葉県民の希望を背負っているようで緊張しました。でも、いい経験が出来たととても楽しかったです。』

袖ヶ浦第1回 カブスカウト隊 | 松下 征永

ぼくは、千葉県誕生150周年記念パレードに参加しました。このパレードには、館山市のマスコットや警察音楽隊、ディズニーのキャラクター達などたくさんの団体が参加していました。その中で、ぼくは先頭の横断幕を担当しました。

ぼくは、パレードが始まる前、本番に強くないので、本当にできるのかなどドキドキしていました。パレードが始まると、人がたくさん集まっていて、さらに緊張が増して来ました。しかし、集まった人達から「がんばれー」と声をかけてもらったり、スカウトのみんなで声を掛け合って団結し合えたので、僕にも出来るんだと自信がわいてきて、最後までやりとげることが出来ました。

これからも、今回の体験をいかして色々なことにたくさんチャレンジしていきたいです。

うみかぜ地区の活動から

うみかぜ地区 ベンチャースカウト 第1回ともだちキャンプ

新しくスタートした「うみかぜ地区」にて旧千葉地区・旧上総地区・旧南総地区のベンチャースカウトたちが初めてお互いに顔を合わせて共にキャンプを楽しむ機会が得られました。多くの方々のご理解とご協力を戴いたことに心より感謝いたします。

(野宮長 市原第3団 北川 修次)

第1回友だちキャンプに参加して

千葉第25団 | 田中 響

- 来てよかったなと思えるキャンプでとても楽しかったです。歳が1、2歳差という近い年齢の人たちとすぐに打ち解けられて良かったです。

千葉第1団 | 堀越 睦

- キャンプを通じて仲間との絆を深めることができました。新しい仲間と出会うことができ、このキャンプに参加して良かったと思います。

千葉第9団 | 鶴岡 亮輔

- 奉仕作業で丸太橋を作りました。ハンマーで杭を打つのが大変だったけど出来たときは嬉しかったです。次は自分たちでできるようにしたいです。

袖ヶ浦第1団 | 鷹架 海友

- 「秋のやまびこコンサート」ではドレミパイプを使って演奏した事はなく楽器を演奏するのが得意ではなかったので不安だったが本番では大きなミスもなくよかった。

市原第3団 | 濱谷 壮摩

- キャンプの目的であるうみかぜ地区ベンチャーの交流は成功と思う。次回の歓迎キャンプにみんなを誘ってまたやりたいと思いました。



戻ってきた



富津第1団 | 羽山 怜

- 今回、参加できなかったスカウトも、今後共に活動して交友を深めて、共にスカウトとして成長できたらいいと考えています。

市原第5団 | 久保 暢重

- 今回のキャンプを通して、自立性と協調性の両方を持ち合わせる事が大事なんだと言うことを学びました。

千葉第9団 | 村井 汐音

- とても楽しくて貴重な体験ができたと思う。電車で移動してのキャンプやトイレを作るのは初めてで常設じゃない手作りのお風呂も初めてだったので、とてもワクワクした。

市原第3団 | 花房 美咲

- 丸太橋を作成するという貴重な体験が出来てたいへん良かったです。あと、みんながフレンドリーに接して下さり、とても嬉しかったです。

なぎさ地区の活動から

令和5年度の夏期キャンプ

なぎさ地区 船橋第7団 ボーイスカウト隊 隊長 | 瀬川 竜也

令和5年度の夏期キャンプは、千葉県旭市の海上キャンプ場で8月11日から4泊5日の日程で実施しました。台風7号が日本列島に接近する中、台風進路とにらめっこしながらのキャンプでしたが、幸い台風の影響はそれほど受けることなく、海水浴、釣り、ハイキング、キャンプファイアなど盛り沢山のプログラムを実行することが出来ました。

今回のキャンプでは班長が急遽欠席となったため、次長が班長の代理として班を率いることになりましたが、とても良い経験になったと思います。

夏キャンプに参加して

なぎさ地区 船橋第7団 ボーイスカウト隊 | 大石 優愛

私が今回の夏キャンプで楽しかったことは、銚子電鉄に乗りハイキングをしたことです。時間がない中、自分達で降りる駅や行く場所を決めるのはあまりやったことがないので大変でしたが、楽しかったです。途中で雨に降られたり、電車に乗り遅れたりとハプニングがたくさん起こりましたが、何とか乗り越えて最後は計画通りゴールすることができました。次はもっと時間をかけて計画を立てて、電車を使ったもっと長い距離のハイキングをしたいと思いました。大変だったことは、ロープ結びやテントの立て方を先輩に教えることです。そもそも、自分がそこまで完璧にできないのに、それを言葉で理解できるように説明すると言うのが難しくて大変でした。次からは、キャンプの前にロープ結びなどの基本的なことをしっかりと復習しようと思いました。



野外活動

かわかぜ地区の活動から

松戸市スカウト連絡協議会主催「第20回みんなで遊ぼう!!自然体験学級」が令和5年11月19日に松戸市21世紀の森と広場(つどいの広場)において開催されました。当初開催予定の10月29日は雨天であったため、予備日での開催ということで、当初参加予定の52世帯から24世帯に減少しました。しかし参加された方々は、催しを心待ちにされて、親子で各コーナのゲームを楽しんでおられました。またボーイスカウト、ガールスカウトの活動に関心が高く様々な質問が寄せられました。

第20回みんなで遊ぼう!! 自然体験学級に奉仕して

かわかぜ地区 松戸第4団 ローバースカウト隊 | 中島 蒼

「みんなで遊ぼう!!自然体験学級」は、松戸市内にある ボーイスカウトとガールスカウトの各団が協働して実施している体験活動です。年に2回(春、秋)開催し、今回で20回目になります。私は、ベンチャースカウトの頃から奉仕をさせていただいております。初対面の地域の子とも同士がグループになり、自然いっぱいの広場でボーイスカウトのゲームに参加してくれました。初めはお互いに緊張している様子でしたがプログラムを周るにつれて初対面のお友達とも協力できるようになり「頑張っ〜!!」「大丈夫だよ」と励まし合いながら段々と手を繋げるぐらい仲間意識が芽生えていきました。このような子どもたちの温かい関係性づくりには成人の見守りによる安心感が欠かせないと感じました。成人指導者が、子供たち一人ひとりに「あなたを見ているよ、あなたならできるよ」と伝え青少年が自信持って活動できるようにサポートすることが重要なのだと思います。楽しい集団は一人ずつの個性の尊重から始まります。私もビーバーに入隊する前にこの行事の参加者でした。「楽しいももっとたくさん遊んでみたい」と思った純粋なあの頃を思い出しながら、これからもローバースカウトと新人指導者の両方の立場でスカウトたちに1番近い存在で気持ちに寄り添って活動していきたいです。



おおとね地区の活動から

令和5年8月5日・6日、7年ぶりに「第13回神社スカウト全国大会」が三重県伊勢市の伊勢神宮・皇學館大学にて開催され、ボーイスカウト・ガールスカウトの中で神社を母体とする42団1056名が参加しました。

私達香取第1団はカブスカウト9名・ボーイスカウト12名・団委員・リーダー9名総勢30名が参加してきました。コロナ禍で宿泊経験の少ない私達でしたが参加者全員それぞれが協力し合い、無事2泊3日をやり遂げ成長して帰ってくる事が出来ました。

(香取第1団 カブスカウト隊副長 佐藤 英里子)



第13回全国神社スカウト大会に参加して

おおとね地区 香取第1団 カブスカウト隊 | 菅野 心春

はじめに、神社スカウト大会の準備や、大会中のサポートをしてくださった方々へ感謝の気持ちを伝えたいです。たくさんの経験と学びを、ありがとうございました。

神社スカウト大会では、特に印象的だった出来事が二つあります。一つ目は、参拝行進です。朝から暑く、行進の途中で鼻血が出たと思ったら、今度はいきなりの豪雨。鼻を押さえていたティッシュも、服も靴もびしょびしょでしたが、仲間に励まされ、最後まで歩ききることができました。

二つ目は、閉会式での出し物「ハカ」です。夕方、関東地区の3個団が集まって海の近くで練習をしました。潮風がとても気持ちよかったです。本番はたくさんの人が見ていて緊張しましたが、精一杯の気持ちを表現することができました。

神社スカウト大会やこれまでのスカウト活動で学んだことはたくさんあります。この先も忘れず、生活の中で活かしていけたら良いと思います。

おおとね地区 香取1団 ボーイスカウト隊 | 中西 陽紀

今回、自分は初めて神社スカウト全国大会に参加しました。新幹線で名古屋に向かい、そこからバスで伊勢市へ向かいました。荷物を整理する時間もなく開会式へ急ぎました。静かな雰囲気の中での開会式に感動しました。宿泊施設に戻って、寒川第2団が中心で、大集会での関東地区の出し物である「ハカ」の練習が始まりました。初めはなれないこともあり、グダグダでしたが、団結力を感じながら練習しました。そして、大集会での「ハカ」の発表では緊張しました。小さなミスがあったかもしれませんが、大人数で迫力をもって行ったので、それが目立たなかったと思います。リーダーからはよく出来たと、ほめ言葉をもらい嬉しかったです。

また、内宮へみんなで参拝行進をしました。正宮を参拝した時に白い布が下がっていました。後で聞くと、その内側で参拝ができることを知りました。それは御垣内参拝といい、神道章を取得するとできることを知りました。自分も神道章を取得して参拝したいと思いました。

高橋昭二副連盟長を偲んで

千葉県連盟の高橋昭二副連盟長(香取神宮名誉宮司)の訃報を知り愕然といたしました。

高橋副連盟長は1962(昭和37)年11月、香取神宮を育成母体とする佐原第1団ボーイ隊結成時に指導者として参加され、後に佐原第2団、同第3団の発団に尽力、県連盟にも1963(昭和38)年度から香取地区代表理事として、1995(平成7)年度からは副連盟長として今日に至っております。この間、香取神宮での県カブラリーや県連盟総会の開催、研修所の開設などに協力、さらに日本連盟の運営面にも貢献されました。これらの奉仕にたいし紺綬褒章、文部科学大臣社会教育功労者表彰、日本連盟「たか章」、特別功績章、感謝盾、千葉県教育功労者表彰など受賞されております。

思い起こしますと、1963(昭和38)年3月に第26回指導者講習会が香取神宮で開催されました。この講習会に高橋さんは参加され、私も若輩ながらスタッフとして参加しました。これが高橋昭二さんとの出会いでした。その時「日本のボーイスカウト結成に天皇陛下(昭和天皇)が大きく関わられたので、香取神宮はボーイスカウトを作った」ことをお聞きしました。元々香取神宮は皇室と深い関係があったこと。加えて皇太子殿下(後の昭和天皇)が欧州ご訪問時の英国でベーデン・パウエル卿のご引見などを大きな契機として日本連盟が結成されたことは知られているところですが、往復路のお召し艦が艦「鹿島」を従えた軍艦「香取」であったことです。

私も県連盟にコミッショナーや理事をはじめ長い間奉仕をさせていただきましたが、高橋副連盟長には大変お世話になりました。近年では県連盟総会時しかお目にかかる機会がなく、これも途絶えてしまうかと思うと寂しくてなりません。正に『永遠のスカウト』を歩まれた高橋副連盟長、永い間ご指導ありがとうございました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

顧問・先達 鈴木國夫



特別な支援が必要な子どもへの対応 指導者セミナー

令和6年1月14日(日)千葉県総合スポーツセンターにおいて、東京都立葛飾特別支援学校校長であり、ボーイスカウト東京連盟県コミッショナーの村山大介氏を講師にお迎えし、特別な支援が必要な子どもへの対応についてセミナーが開催されました。92名の指導者の参加を得て、障がいとは、発達障がいとは、スカウティングにどのように活用していくかなど理解を深めました。

講義では、特性として様々な行動、考え方、見方、感じ方をしている人や、障がいについて専門家で無い私たちが理解できるように解かりやすく教えていただいた。その様な特性を持つ子どもたちにスカウティングの方法をどう活用するのか、我々指導者が一番知りたい事であったが、「何かしてあげよう」と気負わない。ムリをしない。させない。スカウトと保護者が安心出来る場を提供する事なのだという先生のお言葉に触れて、私自身は身構えすぎたのかもしれない。何かで困っているスカウトに対して、皆で考えてのり超える事は、「障がい」とは関係なく指導者の努めであり、日頃の指導者としての接し方と根底は変わらないのだという事に気づく事が出来た。

(レポート:野中美和)



お詫び

スカウトちば102号 第25回世界スカウトジャンボリーの感想文

「世界の人々との交流」の執筆者が うみかぜ地区 千葉第1団 ベンチャー隊 清水 岳人となっておりますが、誤りがありました。

正しくは うみかぜ地区 千葉第1団 ベンチャー隊 清水 岳斗でした。

お詫びして訂正させていただきます。

【発行者】

日本ボーイスカウト千葉県連盟

〒260-0001 千葉市中央区都町2-1-12 千葉県都町合同庁舎4階

TEL.043-235-8070

運動拡充委員会 編集責任 嶋田 敏裕

詳細は、日本ボーイスカウト千葉県連盟ホームページをご覧ください <http://www.scout-chiba.jp>



お問合せは